

# クロアチア語母語話者の日本語学習者は、 「依頼場面」で可能形式をいかに用いるか

—I-JAS コーパスにおける依頼場面の発話データをもとに—

村田 恵美（ザグレブ大学）

## 【要約】

本研究では、クロアチア語母語話者の日本語学習者が依頼場面において可能形式をどのように使用するかを分析し、I-JAS コーパス内の日本語母語話者のデータとの比較を行った。分析の結果、クロアチア語母語話者は依頼場面で可能形式を使用することもあるが、許可を求める表現や直接的な依頼表現を使用する傾向も見られた。

## 1. はじめに

日本語の可能形式には、異なる視点からの分類方法が存在する。まず能動主体の能力による可能性か、あるいは能力以外の外的条件による可能性かという観点から「能力可能」と「状況可能」に分類する方法がある。つぎに、動作の実現までを含めて述べるかどうかに基づき、「潜在可能」と「実現可能」に分類する方法がある（日本語記述文法研究会編 2020）。

### ・「能力可能」と「状況可能」で分類した例

- (1) 彼女は日本語が話せます。（能力可能）
- (2) 彼は、ピアノを弾くことができる。（能力可能）
- (3) この日本語サロンでは日本語をたくさん話せます。（状況可能）
- (4) 他の人の予約がなければ、すぐに診察を受けることができる。（状況可能）

### ・「潜在可能」と「実現可能」で分類した例

- (5) 彼女は、中国語が話せるが、みんなの前では話さななかった（潜在可能）
- (6) 大学の図書館では、ハンガリー語の本も借りることができる。（潜在可能）
- (7) 彼女は、中国語が話せた（実現可能）<sup>1</sup>
- (8) 大学の図書館で、ハンガリー語の本を借りることができた。（実現可能）

また、可能形式は文脈によって、(9) の文のように「評価」の意味を表したり、(10) の文のように「謙虚さ」を示したり、(11) の文のように「依頼時の丁寧さ」を示すとも言われている。

- (9) 「鎌倉は住める」（評価：小野 1993、p.84）

---

<sup>1</sup> 彼女が中国語を話しているのを実際に見た。

(10) 「おかげさまで A 大学に合格できました」(謙虚：加藤 2016, p.174)

(11) 「ここに名前を書いてもらえる？」(依頼：前田 2021、p.58)

前田 (2021) は、依頼表現において可能形式を使用することで丁寧さを表現できると指摘し、その表現には「もらえる」から「いただけませんか」までの 19 種類が存在すると説明している (図 1)。可能形式の習得に関しては、日本語学習者の母語に「可能」を示す概念が存在する場合、可能の概念を理解し、可能動詞を形成すること自体は比較的容易であると考えられているが、実際に使用できるようになるには、時間を要するとも言われている (小柳・峯 2016、渋谷 1998、姫野 2001、前田 2021)。

本研究では、クロアチア語を母語とする日本語学習者が「依頼場面」において可能形式をどのように使用しているのかを分析し、日本語母語話者との比較を通じて、その使用実態を明らかにすることを目的とする。具体的には、I-JAS コーパスに収録された日本語母語話者の依頼場面の発話データを比較する。日本語母語話者のデータと比較することで、クロアチア語母語話者の日本語学習者が可能形式を依頼場面でどの程度、どのような形で用いているのかを検討する。本研究を通じて、クロアチアの日本語教育における依頼表現の指導法に関する知見の深化に貢献することを目指す。

丁寧さ

		1 人称主語+もらう+可能+疑問			
			否定	推量	否定推量
非敬語	普通体	もらえる？	もらえない？	【もらえるだろうか】	【もらえないだろうか】
	丁寧体	もらえます(か)？	もらえません(か)？	もらえるでしょうか もらえますでしょうか	もらえないでしょうか もらえませんでしょうか
敬語	普通体	いただける？	いただけない？	【いただけるだろうか】	【いただけないだろうか】
	丁寧体	いただけます(か)？	いただけません(か)？	いただけますでしょうか	いただけないでしょうか いただけませんでしょうか。

図 1 「～してもらえます？」のバリエーション (前田 2021、p.58)

## 2. 先行研究

可能形式に関する研究は、これまで多様な視点から分析が行われてきた。本節では、先行研究を踏まえ、可能形式の意味に関する分類とその特徴について概観する。

### 2.1 可能形式の意味

日本語の可能形式の意味については、さまざまな研究において議論されてきた。日本語記述文法研究会編 (2020) は、可能形式を用いた文の意味を、動作の実現が可能・不可能となる理由や条件に基づき、「能力可能」と「状況可能」の二種類に分類できると述べている。また、動作主の実現までを含

めて述べるか否かによって、「潜在可能」と「実現可能」のカテゴリーに分けることも可能であるとしている。このように、可能形式の意味については、これまでも多角的な視点から分析がなされてきた。例えば、寺村（1982）は、可能形式を用いた文の意味を詳細に分類し、(12)のような文を「能動的可能表現」と呼び、「Xにとって（Yに対して）Vする能力を持っている」という意味を持つと説明している。一方、(13)のような文は、一般的な可能状態の表現であり、「受動的可能表現」として位置付けられている。

(12) コノ魚ハ木ニノボレル（寺村 1982、p.259）

(13) コノ魚ハ食ベラレル（寺村 1982、p.259）

そして、宮島・仁田（1995）は、動作の実現の有無を基準とした分類を提案し、可能形式の意味を、実際にある動作を、実現する（または実現した）ことを表す「実現系の可能」と、実現の可能性がある（またはあった）ことに言及する「潜在系の可能」にわけた。特に、「潜在系の可能」は状態を描写する表現であり、テイル形を付加することができないといった特徴を持つと説明している。また、可能形式の意味は、動作の（不）可能性を規定する条件によっても分類できると説明している。これは、動作主体に能力が備わっているために動作が可能となる、あるいは能力がないために不可能となる文を「能力可能」とし、動作主体を取り巻く外的条件が整っているために動作が可能となる、あるいは条件が整っていないために不可能となる文を「状況可能」と説明している。

また、渋谷（2005）は、可能の意味を「心的可能」「能力可能」「内的条件可能」「外的条件可能」の4種類に分類している。主体内部に永続的に存在する心情的・性格的な条件によって可能・不可能であることを述べているものを「心的可能」とし、主体ない内部にほぼ永続的に存在する能力的な条件によって可能・不可能であることを客観的に述べているものを「能力可能」としている。また主体内部の病気や気分などの一時的な条件によって可能・不可能であることを述べているものを「内的条件可能」とし、主体外部の条件による可能・不可能を述べているものを「外的条件可能」としている。

さらに、中井・呂（2014）は、日本語における可能の意味を「能力可能」「条件可能」「属性可能」「認識可能」の4種類に分類している。具体的には、ある動作または状態を実現する能力が主体に備わっているか否か、また本来持っている能力と習得によって得た能力を含むものを「能力可能」とする。一方、主体の能力の有無ではなく、条件による制約を受ける場合を「条件可能」としている。そして、主体が意志を持たない非情物であり、事物の属性や状態が実現可能かどうかを示す文を「属性可能」と分類し、中井・呂（2014）はその例として「時速 100 キロで走ることができる」という文を挙げている。また、文章などで表される認識上の可能性の有無を示す表現として「～得る」を用いる場合を「認識可能」に分類している。

このように、可能形式の意味に関する研究では、さまざまな観点から分類が行われており、可能形式の意味は単一の枠組みでは捉えきれないことがわかる。

## 2.2 日本語の可能形式の語用論的意味

日本語の可能形式は、文脈や場面によって異なる語用論的意味を持つことが指摘されている。具体的には、以下のような用法が報告されている。

- (14) 評価「彼は信用できる」(小野 1993, p.3)
- (15) 許可「君は仕事を終えたのだから、家に帰ることができるよ」(渋谷 1993, p.49)
- (16) 禁止「ここは車庫前につき、駐車できません」(渋谷 1993, p.49)
- (17) 謙虚「おかげさまで志望校に合格できました」(加藤 2016, p.49)
- (18) 動作の見込み「昨日は、岡山まで行けました。でも神戸で降りて宿を探しました」(加藤 2003, p.97)
- (19) 依頼「この漢字の読み方、教えてもらえる？」(前田 2021, p.58)

これらの用法から、日本語の可能形式は、単に動作の可否を表すだけでなく、話し手の態度や社会的背景を示す機能を担っていることがわかる。

### 2.3 第二言語習得論

可能表現の習得時期について、渋谷(1998)は、KY コーパスを用いて、可能表現は中級以降に使用が見られはじめること、「超級」「上級」でも誤用が見られることを説明する。また小柳・峯(2016)は、可能動詞は、基本語順や動詞の活用がわかる段階と同じ時期に習得されると述べている。

母語の影響については、渋谷(1998)では韓国語には日本語の「することができる」に対応する表現があり、日常的によく使われることが日本語学習者の習得に影響していると説明する。また姫野(2001)は可能表現は学習者の母語でも見られる表現のため可能について理解できるが、実際に使用できるようになるには難しいこと、母語が影響することがあることを指摘している。さらに、楠本(2009)やセリーム(2013)は、日本語教育では、可能形式の文型練習や文を作成する練習が多く、可能の意味を持つ自動詞については説明が不十分であると説明する。

そして、日本語母語話者と欧州の日本語学習者(英国、オーストリア、スペイン、ドイツ、ハンガリー、フランス、ドイツ)の依頼場面における可能形式の使用傾向については村田(2023)が I-JAS コーパス<sup>2</sup>に収められているデータを用い分析を行った。村田(2023)では、「ロールプレイ」の依頼場面では日本語母語話者が「～ていただけますか」を使用するのに対し、欧州の日本語学習者は「できる」の使用が多かったことを述べている。さらに、「～ていただく」を使用した文は、出身国や日本語のレベルに関係なく「2回働いていただけますか」や「毎日2日仕事していただけないでしょうか」のように、聞き手がアルバイトの日程変更をするような意味が変わってしまう表現がみられた。しかし、これまでの研究では、クロアチア語母語話者を対象とした分析は行われていない。そこで、本研究では、クロアチア語を母語とする日本語学習者の依頼場面における可能形式の使用実態を明らかにするため、以下の研究課題を設定し分析を行う。

#### 【研究課題】

1. 日本語母語話者とクロアチア語母語話者の日本語学習者は、依頼場面でどのような可能形式を用いるのか。また、その使用にどのような違いがあるのか。

<sup>2</sup> I-JAS コーパスは、2000年に国立国語研究所から公開された資料で、日本語母語話者と日本語学習者(合計1100名)が「ストーリーテリング(2タスク)」、参加者と調査者が30分の会話をする「対話」、依頼場面と断り場面の「ロールプレイ」、絵を見ながら説明をする「絵描写」、そして「作文」の5つのタスクを行ったデータが収められている。

2. クロアチア語母語話者が日本語を学習する際、依頼表現に関して指導上注意すべき点は何か。

### 3. 分析の概要

本研究では、I-JAS コーパスの「ロールプレイ」の依頼場面に収められている、日本語母語話者 50 名のデータと、クロアチア語母語話者の日本語学習者にロールプレイを行ったデータをもとに分析をおこなった (表 1)。クロアチア語母語話者の日本語学習者は、可能形式の学習を修了した日本語学習者を対象とし、ロールプレイの実施前に SPOT90 のテストを行った。テストの結果は、日本語学習者は中級 9 名、上級 4 名だった。<sup>3</sup>

表 1 依頼場面のロールカード 1 (迫田他編 2020)

<p>《ロールプレイ 1》</p> <p>あなたは、日本料理店でアルバイトをしています。接客スタッフとして注文を取ったり、料理を運んだりしています。勤め始めてからずっと接客の仕事をしてきたので、この仕事にもすっかり慣れ、知り合いのお客さまも増えてきました。</p> <p>今は、1 週間に三日アルバイトをしています。しかし、忙しくなってきたので、1 週間に二日に変更したいと思っています。そこで、店長に言って三日から二日に変えてもらうように頼んでください。(準備ができれば始めますから、準備ができれば教えてください。)</p>
---

分析対象者：日本語母語話者 50 名、クロアチア語母語話者 13 名

調査期間：2021 年～2023 年

クロアチア語母語話者 SPOT90 平均点：75.4 点 (初級 0 名、中級 9 名、上級 4 名)

日本語母語話者および日本語学習者のデータは、KY コーパスを用い、中国語・英語・韓国語母語話者の発話の分類を (20) のように分類した渋谷 (1998) の方法を用いた。また、渋谷 (1998) では「複合動詞」に関しては、V テ V の形式をとるもの (V は動詞。例：シテイケル・シテイラレル・シテモラエルなど)、VV の形式をとるもの (例：思イ出セル・言イキレルなど)、および「その他」としてデキレバなどを抽出している。

(20) (a) 助動詞 (ラ) レル類 ((ラ) レル)

(a) -1 五段動詞+レル：行カレルなど (五段)

(a) -2 一段・カ変動詞+ラレル：見ラレルなど (他)

(b) 可能動詞類 (可能動詞)

(b) -1 五段動詞派生の可能動詞：行ケルなど (五段)

(b) -2 一段・カ変動詞派生の可能動詞：見レルなど (他)

<sup>3</sup> SPOT90 の結果は、入門、初級、中級、上級にわけることができる。入門は 0-30 点、初級は 31-55 点<日本語能力試験 N4 または N5 レベル>、中級は 56-80 点<日本語能力試験 N3 または N2 レベル>、上級は 81-90 点<日本語能力試験 N1 レベル>である。

(c) デキル類 (デキル)

(c) -1 スルコトガデキル：行クコトガデキルなど (スルコトガ)

(c) -2 動名詞デキル：勉強デキル・説明デキルなど (VN)

(c) -3 その他のデキル：単独使用、勉強ガデキルなど (—) (渋谷 1998、p.68)

#### 4. 分析の結果

##### 4.1 日本語母語話者とクロアチア語母語話者の依頼表現の違い

まず、研究課題 1 日本語母語話者とクロアチア母語日本語学習者は依頼場面でどのような可能形式を用いるのか、また両者の相違点について調査を行った。

まず、日本語母語話者は (21) や (22) の文のように「できれば」や「できたら」などを前置きにして依頼を行う表現や、(23) から (25) の文のように複合動詞の V テ V の形を用いて依頼をする表現が確認された。

(21) できればあの一、週三日だとかなり、厳しいので、変更させていただきたいなと (JJJ01)

(22) えっと、ぼ、僕のほうも今他の用事でえ一週、三日はちょっとだんだんきつくなっていってるのでできれば週二に減らしてほしいんですけども、はい (JJJ12)

(23) はい、店長実は非常に申し上げにくいんですが、今あのととても楽しくあの一アルバイトをですね三日間あの週に三日間あの一やらせていただけてますが、たいへん申し訳ないことにあの事情によって一週間に二日間に変更して、えいけないものでしょうか (JJJ05)

(24) たいへん申し訳ないことにあの事情によって一週間に二日間、え一にえ一と変更して、えいけないものでしょうか。 (JJJ05)

(25) 週三日入ってるんですけど、それを、週二日一に変えてもらえないかな一と思って (JJJ08)

さらに (26) や (27) の文のように、「～てもらう」「～ていただく」が「～たら、～れば」の条件を表す言葉などとも共起して依頼している表現も見られた。

(26) ま一週間に二日できれば、早いうちから、そういうふうに変更してもらえたら、助かるなと考えていますはい (JJJ26)

(27) 三日から、ちょっと二日に減らしていただければと思うんですけども (JJJ17)

一方、クロアチア語母語話者も (28) や (29) の文のように「～てもらう」「～ていただく」の可能形式を用いた表現を使用する文が見られたが、(30) から (31) の文のように「～てもいいですか」や「～てもよろしいでしょうか」といった許可を求めの表現も見られた。また (32) や (33) の文のような「～ほしい」や「～たい」を使用した表現や、(34) や (35) の文のような「～ても大丈夫でしょうか」のような表現も確認された (表 2)

表2 クロアチア語母語話者による依頼表現の使用状況

依頼表現の形式	出現数 (件)
~てもらおう/~ていただく	3 件
~てもいい/~てもよろしいでしょうか	5 件
~てほしい/~たいですけど	3 件
~て大丈夫でしょうか	2 件

- (28) 最近は少し他のことで忙しくなって、今の週に3日のシフトを少し減らしてもらえると嬉しいです。(CRO006 上級)
- (29) 2日に変更していただければ本当に助かります。(CRO004 上級)
- (30) 実は、最近は大学で勉強がすごく忙しくてもう卒業論文が考えないといけないので、できれば仕事をちょっと減らしてもいいですか。(CRO001 上級)
- (31) 申し訳ございません。今から大学の事情がちょっと忙しくなっています。そして今から3日毎、毎週3日働いたら勉強の時間が足りなくなる。かもしれないから働く時間を2日にして、してもよろしいでしょうか。(CRO005 中級)
- (32) すみませんが、ちょっとお願いがあるんですけど、じつは私はアルバイトの日数を変えてほしいです。(CRO012 中級)
- (33) お願いがあるんだけど。大学が忙しいになったので、週3回、今まで週3回働きましたが、これから週2回に働きたいんですけど、どうですか？(CRO010 中級)
- (34) 実は、学校で、そろそろテストが近づいていますので、実はあの、ちょっと勉強で忙しくなりました。今、週3回くらい働いていますが、これから週2回くらい行っても大丈夫でしょうか。  
(CRO002 上級)
- (35) 今まで全部は大丈夫でした。今、忙しくなりましたね。少し、まあいつかから2つかに変えて大丈夫ですか？(CRO007 中級)

#### 4.2 クロアチア語母語話者との日本語学習時における注意点

依頼場面におけるクロアチア語母語話者の発話では、文法的な大きな誤用は確認されなかった。これは、分析対象者が13名であり、全員が初級教科書を修了していたことが影響していると考えられる。そこで、筆者の勤務校で使用されている日本語初級教科書『げんきII』(第2版)および『上級へのとびら』において、可能形式を用いた依頼表現がどのように提示されているかを調査した。

『げんきII』(第2版)では、第16課において「~ていただけませんか」の表現が導入されている。この課では「~ていただけませんか」は丁寧な依頼表現であり、「~てくれませんか」がその次に丁寧な表現、「~てくれない？」が友達同士のカジュアルな依頼表現であると説明されている。また、脚注では(36)のように、前田(2021)が示すような「~もらえる」や「~いただける」の可能形式を提示している。

- (36) ~ていただけませんか (いただける the potential verb for いただく)  
 ~てくださいませんか (くださる)  
 ~てくれませんか (くれる)  
 ~てもらえない? (もらえる in the short form)  
 ~てくれない? (くれる in the short form) (『げんきII』 第2版、p.102)

また『上級へのとびら』では第4課において(37)の文のように「できれば」「できたら」が文法項目として紹介されている。

- (37) 「それから、できれば、今日練習を見学させていただきますか」 (岡他 2009、p.95)

## 5. 考察とまとめ

これまでの研究結果は次のとおりである。まず、研究課題1日本語母語話者とクロアチア語母語話者の日本語学習者は、依頼場面でどのような可能形式を用いるのか。また、その使用にどのような違いがあるのかという点に関しては、日本語母語話者が「できれば」「できたら」や、複合動詞の「~てもらえますか」「~ていただけますか」などの可能形式を使用していることがわかった。また、クロアチア語母語話者も複合動詞の「~てもらえますか」「~ていただけますか」などの可能形式を使用していたが、「~てほしい」や「~たい」など、相手に直接自分の希望を伝える表現を用いる話者もいた。この傾向は、中級者に見られたことから、クロアチア語母語話者の日本語レベルや相手に誤解を与えないよう、明確に意図を伝えようとする姿勢が影響していると考えられる。

また「~てもいいですか」という表現を使用する傾向もみられた。「~てもいいですか」は確認や許可を求める表現に分類される(蒲谷 2013、p.231)<sup>4</sup>。クロアチア語における依頼表現の一つに「Možete li mi pomoći? (手伝っていただけませんか)」のように、可能形式の moći を使用する表現がある<sup>5</sup>。一方で、この moći は許可の意味も持つ (Anić 2003, 2007)。そのため、クロアチア語母語話者は、日本語においても許可を求める表現である「~てもいい」を依頼の場面で使用した可能性もある。

つぎに、研究課題2クロアチア語母語話者が日本語を学習する際、依頼表現に関して指導上注意すべき点は何かという問いに対する分析を行った。分析の結果、本調査では大きな誤用は見られなかった。これは分析対象者が初級レベルを修了していること、また通常 I-JAS コーパスでは各国50名が分析対象者であるのに対し、本調査では人数が13名と少数であったことも影響していると考えられる。そのため、筆者の勤務校で使用されている日本語初級教科書『げんきII』(第2版)および『上級へのとびら』において、可能形式を用いた依頼表現がどのように扱われているのかを調査した。『げんきII』(第2版)では、前田(2021)が示すような、依頼場面における可能形式を用いた多様な表現が第16課で導入されており、脚注でも紹介されていた。また、日本語母語話者が多く使用していた「できた

<sup>4</sup> 蒲谷(2013)の「行動展開表現の9類型」では「(アナタハ) シテクレマスカ・(ワタシハ) シテモラエマスカ」は依頼を表現し、「(ワタシガ) シテモイイデスネ・(ワタシガ) シテモイイデスカ」は許可にあたる表現であると説明している。

<sup>5</sup> Možete li mi pomoći?の Možete は moći の2人称複数形に活用したものである。また聞き手が一人である時にこの形が使用された時は、聞き手に敬意を表す表現となる。

ら」や「できれば」は『上級へのとびら』第4課で紹介されていた。前田（2021）では、「～ていただけますか」「～もらえますか」を教える際の最も簡単な方法の一つとして、図1のような～してもらえる？のバリエーションをひとまとまりの依頼表現として学習者理解・運用してもらうことであると説明している。実際の授業では、脚注の内容を紹介したり、依頼表現のバリエーションについて練習を行うことは、授業時間の関係上省略されがちである。しかしながら、教師が脚注などの補足説明にも注意を払い、依頼場面で使用可能な表現を学生の様子を見ながら適切に提示すれば、学生も依頼表現の運用能力を向上させることができると考えられる。

本調査では、I-JAS コーパスの「依頼場面」に収められているデータをもとに、日本語母語話者とクロアチア語母語話者の日本語学習者が「依頼場面」においてどのような可能形式を使用するかを調査した。その結果、クロアチア語母語話者は、依頼場面で可能形式をあまり使用せず、許可を求める表現や、自分の意見を直接伝える表現を使用する傾向があった。日本語学習者に日本語母語話者と同じように表現することや、依頼場面で可能形式を使用して表現することを強いるわけではない。さらに、ロールプレイを行っているため、クロアチア語母語話者が日程を変更するタスクをできるだけ早く進めようとする意識が、可能形式の使用傾向に影響を与えた可能性も考えられる。しかし、クロアチア語を母語とする日本語学習者が、日本語においてより自然な依頼表現を使用できるようになるための支援として、前田（2021）が示す「授受表現」の可能形式の一覧や、「できれば」「できたら」といった前置き表現を指導時に適宜提示することが有効であると考えられる。これにより、日本語学習者が日本語を使用して依頼表現を行いやすくなることが期待される。

本調査では、実践的な指導や教育的介入までは実施できなかった。今後、これらの観点から研究を進めることで、教育場面での介入方法がより明らかにできることが考えられる。この点については今後の課題としたい。

## 謝辞

本研究にあたり、I-JAS コーパスの作成に携わった先生方をはじめ、スラブ語を母語とする先生方、またスラブ語に精通している先生方から貴重なご意見を頂いた。心より感謝申し上げます。また、本調査にご協力いただいたクロアチア語母語話者のみなさまにも、深く感謝申し上げます。

## 参考資料

坂野永理他（2011）『初級日本語げんき』The Japan Times.

岡まゆみ他（2009）『上級へのとびら』くろしお出版.

Anić, V. (2003). *Veliki Rječnik Hrvatskog Jezika*. Novi Liber.

Anić, V. (2007). *Rječnik hrvatskoga Jezika*. Europapress Holding i Novi Liber.

I-JAS コーパス<<https://www2.ninjal.ac.jp/jll/saj/ihome2.html>>（2025年1月30日参照）

筑波日本語テスト集<<https://ttbj.cegloc.tsukuba.ac.jp/en/p1.html>>（2025年1月30日参照）

## 参考文献

小野正樹（1993）「日本語可能表現に関する一考察」『日本語教育連絡会議第6回総合報告書』, pp. 82-84.

加藤重広・滝浦真人（編）（2005）『語用論研究ガイドブック』ひつじ書房.

蒲谷宏（2013）『待遇コミュニケーション論』大修館書店.

- 楠本徹也 (2009) 「無標可能表現による一考察」『東京外国語大学論集』 79, pp. 66-84.
- 小柳かおる・峯布由起 (2016) 『認知的アプローチから見た第二言語習得』 くろしお出版.
- 渋谷勝己 (1998) 「中間言語における可能表現の諸相—Variation in Interlanguage: The Case of Japanese Potential Expressions—」『阪大日本語研究』 10, pp. 67-81.
- セーリム・パンニー (2013) 「「自動詞の可能形」の誤用の要因に関する考察—初級日本語教科書の分析から—」『日本語・日本文化研究』 23, pp. 118-128.
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味』 くろしお出版.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2020) 『現代日本語文法 2 第 3 部 格と構文・第 4 部 ヴォイス』 くろしお出版.
- 姫野昌子 (2001) 「日本語教育における文法の指導—可能表現を例として—」『明治書院』 20 (3), pp. 53-60.
- 前田直子 (2021) 「敬語表現と文法—授受動詞の用を中心に—」『待遇コミュニケーション研究』, pp. 52-67.
- 宮島達夫・仁田義雄 (編) (1996) 『日本語類義表現の文法 (下) 複文・連文編』 くろしお出版.
- 村田恵美 (2023) 「日本語学習者は可能表現を「依頼場面」でいかに用いるか—I-JAS コーパスにおける日本語・英語・スペイン語・ドイツ語・ハンガリー語・フランス語母語話者の発話データから探る」『ヨーロッパ日本語教育』 27, pp. 334-346.